

## ほめ言葉は暮らしの潤滑油 ブタはこうほめよう

どんな人であれ他人からほめられるということは、うれしいものだ。本人の美点だけでなく、そのコレクション、ペット、作品など、何であれ、ほめられて悪い気はしない。

たとえお世辞でも、相手を喜ばせるということは、社交上の潤滑油なのだから、大いにほめまくって、世の中を明るくしよう。

ただ同じほめるにも、ほめやすいものと、ほめづらいものがある。

落語に「牛ほめ」という話がある。与太郎が「菅原伝授手習鑑」にも見られる相牛の法を

「天角・地眼・一黒・陸頭・耳小・歯違」と、たどたどしく述べながら牛をほめるところが眼目なのだが、いかにもむずかしそう。

それではブタの場合はどうだろう。とっておきのほめ方を教えよう。次の十二条の条件にあてはまるようにほめればよいのだ。

- ・目は温和で輝いている。
- ・両目の間は広い。
- ・顔は短めで、ほどよくしゃくれている。
- ・頬は縮まっている。



- ・鼻端が広い。
- ・頭が軽い。
- ・首が長すぎず、縮まっている。

・背幅が広い。

・乳首が十二個以上で、乳堤によけいな脂肪がついていない。

・尾の位置が高い。

・尻は広く、長い。

・腹は豊かでよく縮まっている。

実はこれは理想的なヨークシャー種の子豚のチェックポイント。

この条件を満たしているブタなら、おいしい肉となることは保証されている。

ブタ自慢の人に出会ったときに、こんなほめ言葉がいったら、あなたの株は一気にあがるのは間違いない。でもそんな機会が一生の間にめぐってくるかどうか、それが問題だ。